

# 魚類防疫に関する技術指導と研究

(魚介類安全対策事業)

吉田太輔・松本洋典・清川智之・岡本 満・福井克也

## 1. 研究目的

海面及び内水面の魚病被害軽減と魚病のまん延防止のため、魚病検査や水産用医薬品の適正使用の指導及び養魚指導・相談を行なう。

## 2. 研究方法

種苗生産、中間育成、養殖場等の生産施設を巡回し、疾病の対処法や飼育方法の指導・助言を行うとともに、各生産施設や天然水域における疾病発生時には現地調査、魚病検査により診断を行った。検査方法は、主に外観および解剖による肉眼観察、検鏡観察、細菌分離、PCR 検査等を行った。細菌が分離された場合は、対処法および水産用医薬品の適正使用について指導を行った。

モニタリング調査として、ヒラメのクドア属粘液胞子虫症 (*Kudoa septempunctata*)、コイヘルペスウイルス (KHV) 病、アユのエドワジェラ・イクタルリ症について、農林水産省ガイドラインおよび水産庁が作成した防止対策等に従って定期的な保菌検査を実施した。また、ヒラメのシュードモナス症について、本県では度々中間育成施設で被害が発生していることから、定量 PCR による保菌検査を行った。その他、種苗生産施設等からの依頼に応じた保菌検査も行った。

なお、アユの冷水病に関しては「アユ冷水病対策事業」に記載した。

## 3. 研究結果

### 疾病発生状況

今年度の魚病診断件数は、海面 3 件 (隠岐地区 1 件、出雲地区 1 件、石見地区 1 件)、内水面 5 件の計 8 件であった。主要なものとしては以下のとおりである。

海面では、隠岐地区の中間育成施設でマダイのオクロコニス症、石見地区の中間育成施設でヒラメの滑走細菌症による斃死が発生した。出雲地区の種苗生産施設では夏～冬にかけて長期

的なアワビ類の斃死が発生したが、原因と考えられる細菌等が検出されなかったことから、生理障害等による斃死と考えられた。

内水面では、石見地区の養殖場で、細菌性鯉病によるアユおよびイクチオボド症によるチョウザメのへい死が発生した。また、石見地区の天然水域でへい死したニシキゴイ 2 尾について KHV 病の PCR 検査を行ったところ、いずれも陽性だった (増養殖研究所による確定診断も陽性)。また、出雲地区の天然水域でコノシロやオイカワのへい死が発生したが、その原因を特定することはできなかった。

### モニタリング調査

海面では、ヒラメのクドア症について、県内の種苗生産、各中間育成施設のヒラメ計 120 検体の PCR 検査を行ったが、全ての検体で陰性であった。ヒラメのシュードモナス症についても、各中間育成施設のヒラメ計 30 検体を検査したが、全ての検体で陰性であり、シュードモナス症と考えられる目立った斃死も発生しなかった。また、隠岐地区・出雲地区の種苗生産施設からの検査依頼に対応し、ヒラメ種苗のシュードモナス症、アワビ類のキセノハリオチス症の保菌検査を行ったが、いずれも全て陰性であった。

内水面では、KHV 病について、ニシキゴイ養殖業者を対象とした定期検査を春と秋に行ったが、いずれも陰性だった。アユのエドワジェラ・イクタルリ症について、県内で育成された放流用種苗の定期検査を行ったところすべて陰性だった。

海面 (出雲地区、石見地区、隠岐地区) および内水面の疾病発生・診断状況の詳細については添付資料に記載した。